EdTechZine

媒体資料

2019年1月-3月

SHOEISHA

株式会社翔泳社
メディア事業部　広告課
Tel:03-5362-3844

創刊の辞

「EdTechZine（エドテックジン）」は、学びたい、教えたいという意欲を持つ
すべての方に向けた教育ICT（EdTech）のオンラインメディアです。

ICT（情報通信技術）やインターネットの発展により、人々は欲しい情報やデータを、
いつでもどこでも安価に入手できるようになりました。今後はそれらの膨大な情報から、
いかに有益な知識を得て、高い付加価値を生み出していくかが求められつつあります。

簡単に得られる知識はコモディティ化して価値が低下するため、表層的な理解ではなく、
具体的な課題の解決や、人と人との対話によって学びを深める必要があります。
世の中の変化の速度が激しく、「AIが人の仕事を奪う」「人生100年時代」と取沙汰される
昨今においては、人生を通じて「学び続ける」ことの重要性も
一層高まっていると言えるでしょう。

一方でICTの利活用により、人々の「学び」自体のイノベーションも加速するに
違いありません。EdTechZineでは、そのような学びのサポートや実践を行っている方々の
知見を共有することで、読者の皆さまが「自分らしく、主体的に社会に関わり、
充実した人生を送る」手助けができれば、と考えています。

EdTechZine編集長　斉木 崇

媒体データ（2018年11月現在）
- ●メルマガ会員数：約5,100名
- ●月間PV：約133,000
- ●月間UU：約60,000

最新コンテンツ例

キーパーソンインタビュー

年額492円でCreative Cloudが使える！ 破格の学校向けライセンスを提供したアドビの展望とは

印刷用を表示　ツイート 181　シェア 320　B! 2　Pocket 45

相川 いずみ[著]　2018/09/19 14:00

企業の求める人材が変わってきている今、その前段階にある教育の現場はどう変わっていけばよいのか。クリエイティブソフトウェアAdobe Creative Cloudを提供するアドビは、今年6月に、小中高の学校向けユーザー指定ライセンスを年額492円という破格の金額で提供することを発表した。教育の現場に、アドビはどのように関わっていくのか。同社のマーケティング本部副社長の秋田夏実氏に、詳しく話をうかがった。

アドビ システムズ 株式会社 マーケティング本部 副社長 秋田夏実氏

【インタビュー】
クリエイティビティ×学校

イベントレポート（プログラミング教育）

「僕はプログラミングができない」――17歳でロボットの会社を起業した東出氏が、中高生と語った「ビジネス」「ものづくり」「生き方」の話

プログラミング教育　イベントレポート　クリエイター教育

印刷用を表示　ツイート 36　シェア 345　B! 7　Pocket 113

末岡 洋子[著]　2018/09/04 14:00

G's ACADEMYが開催する中高生向けのプログラミング集中講座「G's ACADEMY YOUTH CAMP」に、"17歳の起業家"として知られる東出風馬氏（株式会社Yoki代表取締役社長）が登場。現在19歳、現役大学生である同氏が、"後輩"世代を相手に自身の起業体験やビジョンについて語った。プログラミングを学ぶために参加した

た中高生

る。

【イベントレポート】
若手起業家×学生

立ち上げから1年半、初の資金調達に成功――「この上なく優しい情報端末」を目指して

G's ACADEMYはこの夏、2回のYOUTH CAMPを開催した。7月31日から4日間開催された1回目は中学生から高校生まで合計14人が参加。半数以上が男子だったが、女子も4人が受講した。HTML/CSS、JavaScriptなどのプログラミング言語を学び、オリジナルのWebアプリを作成するところまでを4日でこなす。東出氏はゲストスピーカーとして2日目に講演した。

PR 教育現場でのICT活用事例紹介

プログラミングスキル判定サービス「TOPSIC」を通じてアルゴリズムを学ぶ～立教池袋中学校・高等学校 数理研究部の挑戦

プログラミング教育

印刷用を表示　ツイート 19　シェア 240　B! 0　Pocket 5

相川 いずみ[著] / 青木 崇（編集部）[聞] / 小倉 亜沙子[写]　2018/08/27 14:00

プログラミングにおいて重要になってくるのが問題解決の手順

と

どの

して

て、

ク）」

【導入事例】
プログラミング思考×部活

プログラミングコンテストで数々の実績をもつ同校がなぜTOPSICを始めるに至ったのか。その背景からアルゴリズムの重要性まで、数理研究部顧問の内田芳宏教諭、TOPSICを運営するシステムインテグレータ代表取締役社長の梅田弘之氏、TOPSICの問題作成を手掛けるAtCoder代表取締役社長の高橋直大氏に話を伺った。

左からシステムインテグレータ梅田弘之氏、立教池袋中学校・高等学校 内田芳宏教諭、AtCoder高橋直大氏

注目コンテンツ例

イベントレポート（プログラミング教育）

プログラミング教育なんてやっている場合ではない――高校までに必要な本当の学力

New Education Expo 2017イベントレポート

プログラミング教育　イベントレポート

印刷用を表示

ツイート 307　シェア 5,128　B! 88　Pocket 177

中尾 真二[著]　2017/07/18 14:00

6月1日、New Education Expo 2017において、国立情報学研究所社会共有知センター長 新井紀子氏によるセミナーが行われた。新井氏は「東ロボくん」のプロジェクトでAIを東大に合格させる研究のプロジェクトリーダーを務めていた。その研究結果から、AIとの共存が避けられない時代に本当に必要な能力はなんなのか、特に中高生など若い世代に足らないのはどんなスキルなのかを語ってくれた。

近年、21世紀型スキルとして、コミュニケーションスキル、問題解決能力などを伸ばすため、アクティブラーニングや反転学習、初等教育での英語必須化、プログラミング教育といった手法が注目されている。しかし、新井氏はこれからの時代、本当に必要なのはこれら表面的な知識やスキルではないという。

★2017年7月18日公開
『プログラミング教育なんてやっている場合ではない
――高校までに必要な本当の学力
New Education Expo 2017イベントレポート』

プログラミング教育を否定するのではなく、そもそもこれからを生きる子どもたちに必要なスキルを提起した記事で、多くの先生方、および教育業界関係者や保護者の方々に読んでいただけました！

本記事のPVは、50,000を超え、Facebookでも5,000以上シェアされました。これからもイベントレポートを含め、独自のコンテンツをどんどん発信していきたいと思っております。

★2018年6月22日～コーナー開始
『EdTechビジョナリーインタビュー』

これからのEdTech業界をけん引する方にインタビューするコーナーです。（取材時点での役職です）

第一回　株式会社花まるラボ 代表取締役 川島慶氏
第二回　株式会社Digika 代表取締役社長 橋本恭伸氏
第三回　アルクテラス株式会社 代表取締役社長 新井豪一郎氏
第四回　Classi株式会社 代表取締役副社長 加藤理啓氏
第五回　株式会社マナボ 代表取締役社長 三橋克仁氏

主催イベント

2017年6月11日（日）開催
『ルビィのぼうけん』で体験する小学校プログラミング教育
～EdTechZineオープン記念
第一部：親子向けワークショップ
第二部：教員向けセミナー

【第一部親子ワークショップ】
当日参加：親子29組、同伴5名

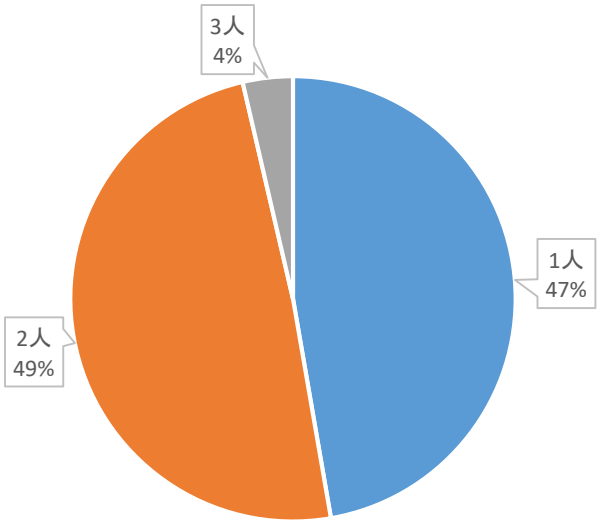
●受講者年齢　6歳：15名、7歳：9名、8歳：8名、9歳：1名
●男女比：男子15人、女子18人
●保護者職業：IT企業、小学校教員、医療関係、新聞社など

【第二部教員向けセミナー】
当日参加者：96名

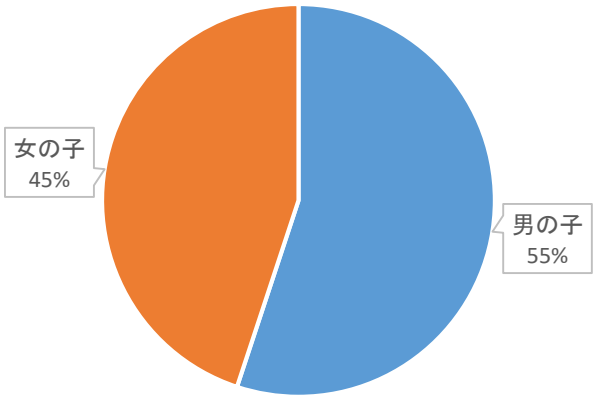
●参加者属性
小学校教員、大学／高校教員、特別支援学校職員、教育委員会委員、進学塾など

読者属性アンケート　※2017年12月実施

Q1.中学3年生までのお子さんは何人いらっしゃいますか？

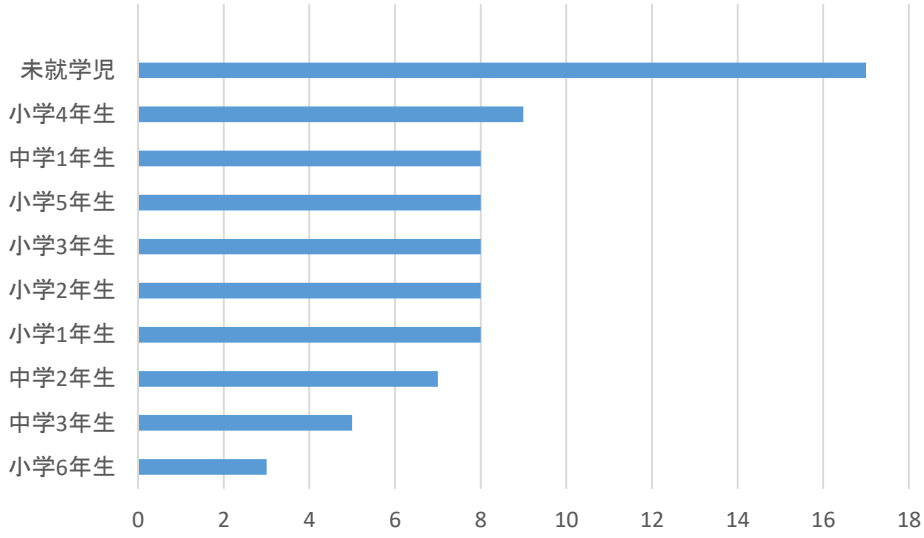


Q2.お子さんの性別を教えてください。



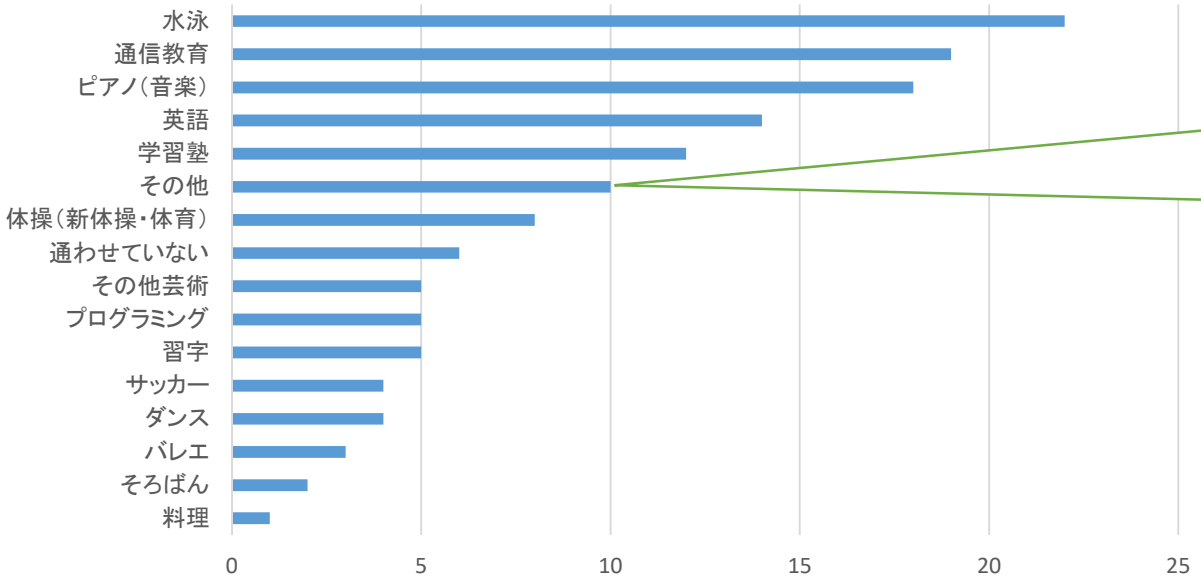
【実施概要】
日時：2017年11月30日～12月13日
対象：中学生3年生までのお子さんがいらっしゃるEdTechZine読者会員
対象数：56名

Q3.お子さんの年齢はおいくつですか？（複数回答可／全85人）



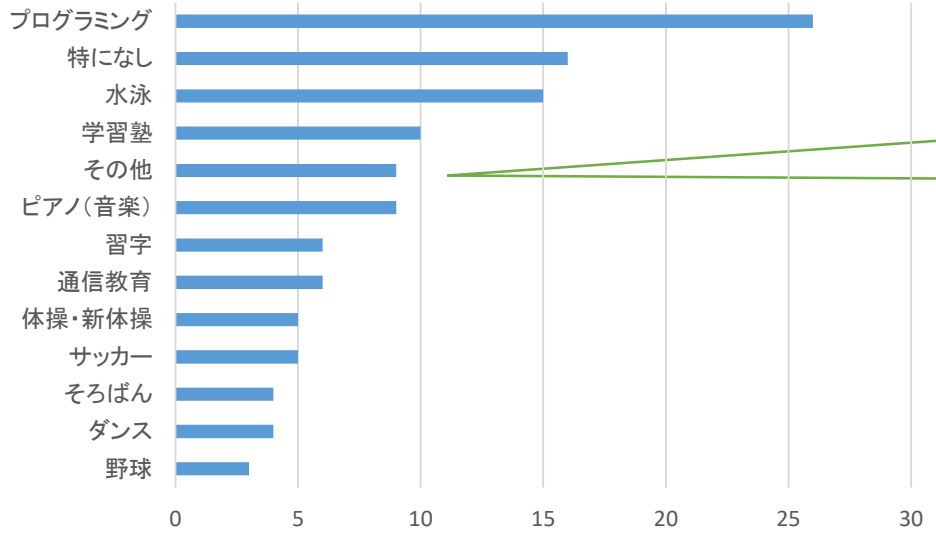
読者属性アンケート　※2017年12月実施

Q4.お子さんはどんな習い事に通っていますか？（複数回答可）



その他内訳：
バイオリン、バドミントン、ロボット教室、
美術のアトリエ、卓球、公文式、
古典や漢文を中心に学ぶ国語の塾、
レゴスクール、ゴルフ、バレーボール、
パズル・アルゴリズム、合気道　など

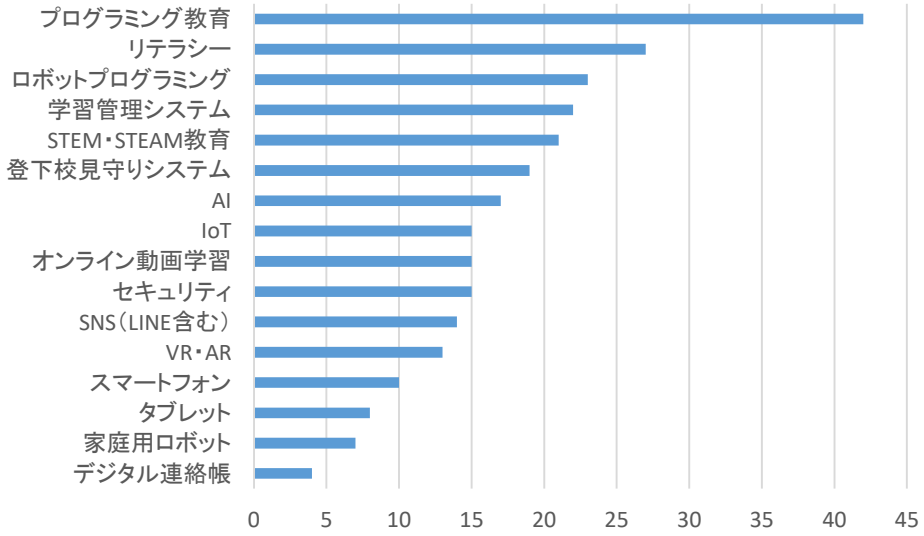
Q5.これからどんな習い事に通わせたいですか？（複数回答可）



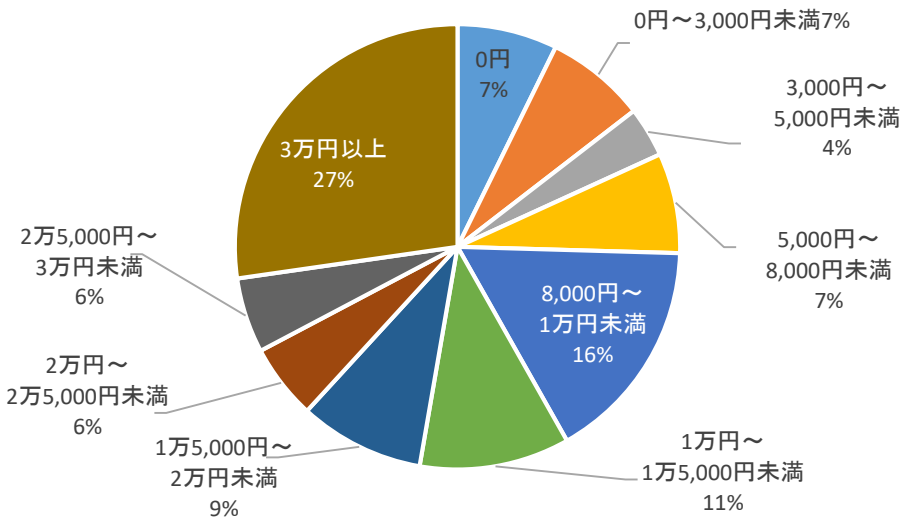
その他内訳：
空手、公文式、サイエンス教室、
社交ダンス、バレエ　など

読者属性アンケート　※2017年12月実施

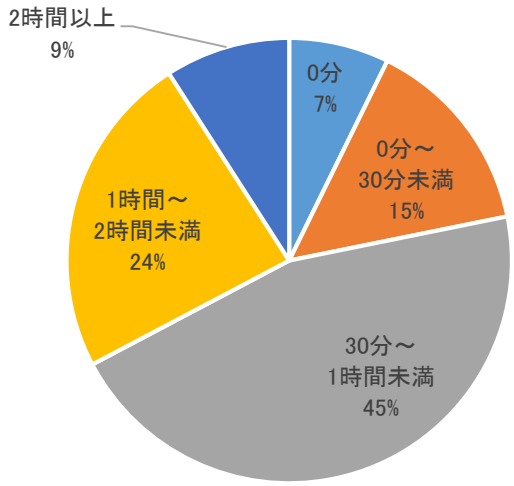
Q6.子育てにおいて関心のあるITワードをお答えください。（複数回答可）



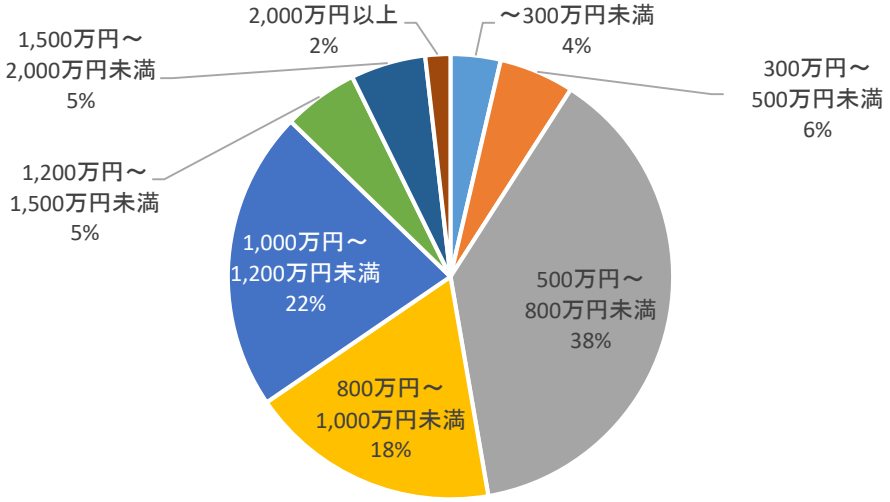
Q8.習い事など、学校外で教育にかけているお金（負担額）/月はどれくらいですか？



Q7.お子さんが学校以外で学習に使っている時間はどれくらいですか？（1日平均）



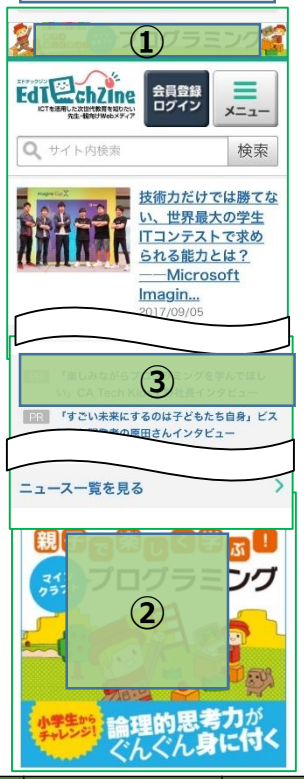
Q9.世帯所得を教えてください。



広告メニュー①　純広告/バナー・テキスト

PC

モバイル



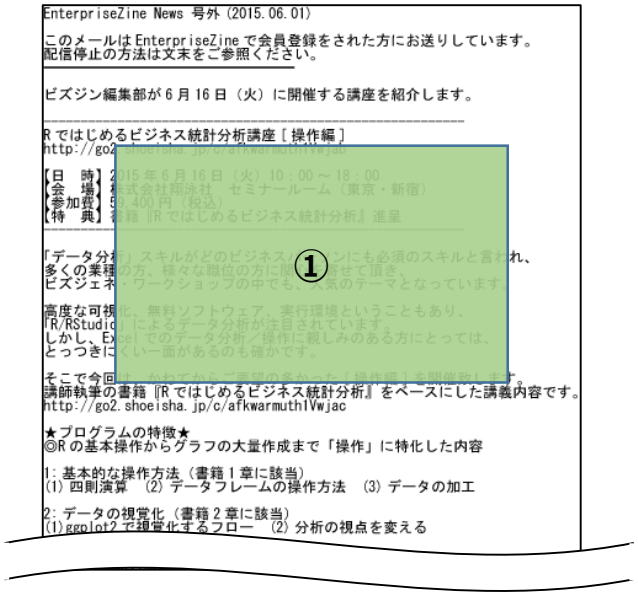
PC

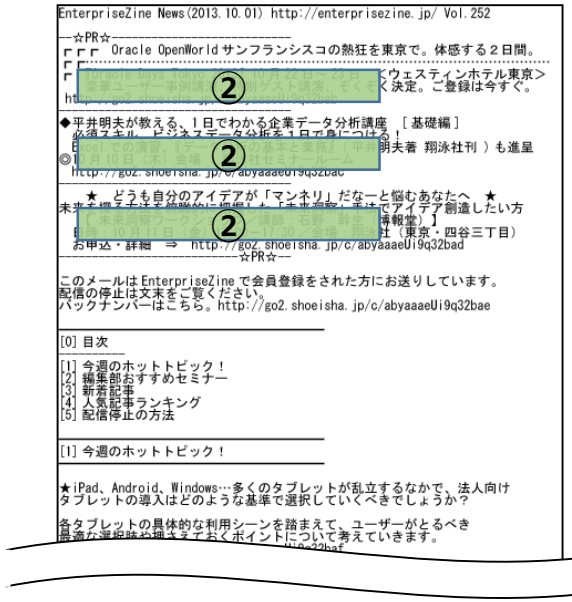
※1 配信ペースには偏りが生じる場合がございます
※2 デバイスへの振り分け配信は不可としております
※3 第三者配信をご希望の際は事前にご相談ください

【入稿先】翔泳社　広告課
ad_submit@shoeisha.co.jp

メニュー	価格(税抜)	想定imp	掲載期間	表示方法 ※1	掲載面 ※2	サイズ(W*H)	容量	ファイル形式※3	ループ	原稿差し替え	入稿締切
①スーパーバナー	¥200,000	40,000	1ヶ月	ローテーション	全ページ	728*90	100KB以下	GIF、jpg、第三者配信	3回まで	2回全3種、営業日のみ	5営業日前
②レクタングル	¥200,000	40,000	1ヶ月	ローテーション	全ページ	300*300	100KB以下	GIF、jpg、第三者配信	3回まで	2回全3種、営業日のみ	5営業日前
③アーティクルリンク	¥100,000	40,000	1ヶ月	ローテーション	全ページ	全角40文字以内	-	テキスト	-	2回全3種、営業日のみ	5営業日前
④記事下バナー	¥100,000	20,000	1ヶ月	ローテーション	全記事ページ(除・タイアップ)(PCのみ)	500*300	100KB以下	GIF、jpg、第三者配信	3回まで	2回全3種、営業日のみ	5営業日前

広告メニュー②　メール広告





【入稿先】翔泳社　広告課
ad_submit@shoeisha.co.jp

メニュー	価格（税抜）	配信数	配信日	文字数	掲載URL	入稿締切
①EdTechZine News 単独メール	¥100,000	5,100	平日任意	［件名］全角35文字以内 ［本文］全角37文字×100行以内	複数可	3営業日前
②EdTechZine News ヘッダ	¥50,000	5,100	第1・3金曜日	全角37文字以内×5行	1点	3営業日前

広告メニュー③　タイアップ記事

TOPページ

記事ページ

◎掲載までの流れ(例)
【お申し込み】
↓　……日程調整
【取材】
↓　……中7～10営業日
【初校提出】
↓　……中3営業日
【初校お戻し】
↓　……中2営業日
【再校提出】
↓　……中1営業日
【再校お戻し・校了】
↓　……中1営業日
【公開】

※上記は1例です
実際のお申し込みの際には
個別にスケジュールを
お出しします

メニュー	価格（税抜）	想定PV/imp	掲載期間	表示方法	文字数	掲載開始目安	原稿制作	その他導線
①タイアップ記事	¥700,000～ (＋遠方の場合は別途交通費)	1,000PV	1ヶ月	-	A4×1.5ページ相当	取材から1ヵ月	編集部	・編集部SNS（Twitter、Facebook） ・RSS ・アリーナ ・編集部メールマガジン「新着記事」欄 ※掲載時期、期間は 編集部に一任いただきます
②Special Contents	¥100,000	40,000imp	1ヶ月	ローテーション	[テキスト]全角45文字 [画像]記事アイコン	記事公開日	編集部	-

※セミナー取材によるタイアップ記事についてのお願い…情報の鮮度を維持するため原則、取材から2か月以内の公開を目安とさせてください。

広告メニュー④　リード獲得システム

サイト内にホワイトペーパーを掲載し、ダウンロードユーザーのリード情報を取得できます。
単独メール等、誘導メニューと組み合わせてのご利用をおすすめしています。
※記事ページと同様の誘導枠（新着紹介、定期メールマガジン掲載など）はございません
※DL数は保証いたしかねます。あらかじめご了承ください。

公開ページ※イメージ

管理画面

価格（税抜）	1本目　　：¥80,000 2本目以降：¥50,000
掲載期間	1ヵ月
原稿規定	【タイトル】100文字以内 【本文】3,000～4,000文字程度 【掲載資料】PDF、pptx、zip形式、10MB以内
掲載可能な資料本数	1ページにつき1本 （zip内への複数ファイル格納は可）
情報閲覧	管理画面より随時ダウンロード可能
掲載開始日	任意の営業日
オプション：アンケート設置	
価格（税抜）	5問まで：¥150,000／10問まで：¥250,000
回答指定	必須／任意
回答形式	単一回答／複数回答／自由回答（1問につき1形式）

※取得情報は弊社会員サービス「SHOEISHA iD」の登録に準じます
……メールアドレス、氏名、会社名、部署、業種(選択式)、役職(選択式)、郵便番号、住所、電話番号、ダウンロード日時

★初回ご利用限定　特別広告メニュー★

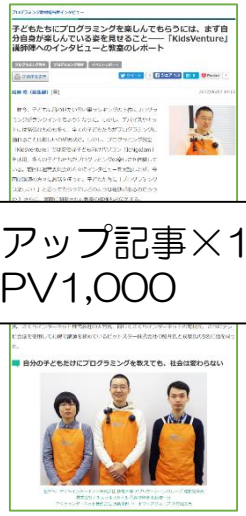
広告メニュー①事例作成プラン

- SHOEISHA iD単独メール※1：教育／研究機関セグメントメール(約9,000通)×1本
- EdTechZine単独メール（5,100通程度）×1本
- EdTechZine取材記事※2×1本　(3,000字～4,000字程度)
- 取材記事二次使用料（Webもしくは紙にて1回ご使用いただけます）

→ご提案金額：50万円（税別、ネット）

※1.本来は、弊社全媒体の読者に49万人に送るメールメニューです。
※2.取材から掲載までは約1か月頂いております。

導線図



タイアップ記事×1本
想定PV1,000

・SHOEISHA iDメール：約9,000通×1本
・EdTechZineメール：約5,100通×1本

貴社サービスサイトなど

【記事二次利用】
・貴社Webへのコンテンツ転載
・展示会等で配布する資料
など